

授業 科目名	体験ゼミナール（First- Year Experience in Regions）	履修年次： 全学科1年	単位数：45 時間 コード：SSA101	担当教員名： 広川由子 他（図書館棟 10） 全教員〔各専門職資格〕
〔DP〕Ⅰ.倫理観とプロフェッショナルリズムⅡ.コミュニケーション能力Ⅵ.多職種との協働				
〔授業の到達目標及びテーマ〕本学の特色科目は、千葉県下における保健医療福祉政策と実践活動、県下の多様な地域の人々の生活とその背景・価値観を理解するとともに、多職種間で連携して一人ひとりの健康生活を支援するための方法論を実践的に学ぶことが目的である。本科目は特色科目の基礎を築く科目であり、以下の6つを目標とする。 ①協力団体やその団体が存在する地域特性を理解することができる。②訪問実習を通して人々の多様な生活や価値観に気づくことができる。③地域社会における各協力団体の位置づけ、機能、役割を学生自らの言葉で発信することができる。④学科間の相互理解を深めることができる。⑤学生としてチームで学ぶ時の態度・マナーを身につけることができる。⑥報告会や個人のレポート作成により、自己の学修を振り返り、今後の学修課題を明確にできる。				
〔授業の概要〕保健医療の専門職として、対象となる人々を「生活者」（その地で生活する人）としてとらえようとすることは重要である。この授業は学外実習形式で、千葉県内の県民が主体となって活動する場に公共交通機関を使って出向き、人々との交流を図ることを通じて、地域の特性や千葉県で生活する人々の多様な生活や価値観を理解する。あわせて、学科の枠を超えたチーム活動により、学科間の相互理解を深め合う。				
キーワード：地域調査 地域活動 訪問実習 学科間連携 主体的学習態度				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	
第1回	4／11	事前学習 1	【大講義室】学長講演（大学での学び）	
第2回	4／18		【大講義室】ガイダンス（シラバス説明、感染症対策の説明等）	
第3回	4／25		【大講義室】協力団体・チームの決定 担当教員との顔合わせ	
第4回	5／2	事前学習 2	【各教室及びB405・406（情報室）】 チームでの学習：訪問地の地域特性調査、協力団体の情報収集、各グループの目標設定、質問事項の決定等	
第5回	5／9			
第6回	5／16			
第7回	5／23	訪問実習 (5/31・6/1・6/7・6/8・6/14)	【大講義室】事前学習報告会	
第8回	5／30			
第9回	6／6		【各教室B405・406（情報室）】 訪問前・訪問後、ポスター作成準備及び作成	
第10回	6／13	事後学習		
第11回	6／20		【各教室及びB405・406（情報室）】 チームでポスター作成・印刷、報告準備	
第12回	6／27			
第13回	7／4	報告会	【B棟1階各教室】ポスター報告①	
第14回	7／11			
第15回	7／18		【B棟1階各教室】ポスター報告② 担当教員とのふりかえり	
履修条件		なし（訪問実習は必須）体調不良等で訪問ができなかった場合は、後日訪問とします。		
予習・復習		「体験ゼミナール～シラバス～」の読み込み及び「体験ゼミナール～学修の記録～」		
テキスト		「体験ゼミナール～シラバス～」及び「体験ゼミナール～学修の記録～」等		
参考書・参考資料等		必要に応じ紹介		
学生に対する評価		学習態度（30%）、ポスター発表の内容（40%）、レポート（30%）により総合評価 「体験ゼミナール～シラバス～」4頁の成績評価参照のこと。		

授業 科目名	千葉県の健康づくり Health Promotion in Chiba	履修年次： 看・ 栄・歯・理・作 2 年	単位数： 1 単位 コード： SSA201	担当教員名： 科目責任者 室井大佑（仁戸名研究室 1）、栗田和紀、渡辺優奈、 荒川真、須藤崇行[各専門 職資格]
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕 I 倫理観とプロフェッショナリズム、VI 多職種との協働、II コミュニケーション能力				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 ・ 千葉県の健康づくり等保健医療福祉施策とその実践活動の実際を理解できる。 ・ 各専門職の専門性を理解し、多職種間で連携・協働して個人および地域の健康生活を支援する意義と方法を理解できる。 ・ 講義内容を踏まえ、千葉県の健康づくりの課題を設定し解決策をチームで検討・提案できる。 ・ 自ら健康づくりの大切さを認識し取り組むことができる。また、千葉県や自分が暮らす地域、さらには世界の健康づくりに関心を持ち続け、必要な方策の検討・実施・評価を重ねていく必要性を理解できる。				
〔授業の概要〕 健康づくりに取り組む専門職や住民の方々の講義（オムニバス方式）から、千葉県における健康づくり等保健医療福祉施策および当事者や国際的視野も含めた多様な実践活動について学ぶ。毎回、各講義内容に関して学科混成グループで議論し、その内容を全体共有することで理解を深める。さらに、講義内容を踏まえグループ毎に千葉県の健康づくりの課題を1つ選定し、その解決策を検討（リーフレット作成）し最終回に発表し合う。				
キーワード： 千葉県、健康づくり、地域づくり、国際理解、専門職、連携				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担 当
第1回	10/1	本学で養成する保健医療専門職の専門性	・ 授業ガイダンス ・ 本学で養成する専門職紹介①	各学科専攻教員
第2回	10/8		・ 本学で養成する専門職紹介②	各学科専攻教員
第3回	10/15	健康づくり～生きる力をはぐくむ～	・ 栄養の実践	各学科専攻教員
第4回	10/22	健康づくり施策	・ 千葉県の健康課題と健康づくり施策	県医療担当部長、各学科専攻教員
第5回	10/29		・ 千葉県内自治体の健康づくり施策	自治体職員、各学科専攻教員
第6回	11/5	健康づくり～生きる力をはぐくむ～	・ こころの健康づくり	自治体職員、各学科専攻教員
第7回	11/12	地域づくり～地域で安心して生活するために～	・ 病気や障害を持つ方	当事者の会、各学科専攻教員
第8回	11/19		・ 病気や障害を持つ方	当事者の会、各学科専攻教員
第9回	11/26		・ 環境問題と災害	環境問題研究者、各学科専攻教員
第10回	12/3		・ 災害支援	災害支援経験者、各学科専攻教員
第11回	12/10	国際理解	・ 国際交流	国際貢献経験者、各学科専攻教員
第12回	12/17		・ 海外旅行者の健康支援	検疫所職員、各学科専攻教員
第13回	1/7	健康づくりの実践（演習）	・ リーフレット作成作業	各学科専攻教員
第14回	1/14			
第15回	1/21		・ リーフレット完成・発表	
履修条件		「体験ゼミナール」の単位を修得済みであること。		
予習・復習		予習は、テーマおよび内容に関する事項を図書館や県 HP 等で事前に得ておく。 復習は、授業で話題になったことや考えたこと等に関連する事項（健康課題・課題解決方策・専門職としての役割等）について、各自調べ、今後の学習や活動に活かす。		
テキスト		資料を配布する		
参考書・参考資料等		授業の中で適宜紹介する。		
学生に対する評価		課題（70%）、学習態度（30%）により総合的に評価する		

授業 科目 名	専門職間の連携活動論 (Interprofessional Education)	履修年次:	単位数: 1 単位 30 時間	担当教員名: 科目責任者 佐々木みづほ (幕張 A406) 全教員[各専門職資格]、他
		全学科 4 年	コード: SSA401	
		実務経験のある教員による授業科目		
〔DP〕Ⅵ 多職種との協働、Ⅱ コミュニケーション能力、Ⅶ 生涯にわたる探求心と自己研鑽				
〔授業の到達目標及びテーマ〕				
本科目は特色科目の総仕上げであり、4 年間培った自らの専門性を大切にしながらも、多学科間で連携して地域住民一人ひとりの健康生活を支援するための方法論等を実践的に学ぶ。				
1. 保健・医療・福祉などさまざまな領域における専門職連携の重要性を理解する。				
2. 各専門職と連携を図るための能力（方法・手段）・コミュニケーションスキルを身につける。				
3. 専門職間の連携活動の機会を通じて対象者への理解を深める。				
〔授業の概要〕				
保健医療福祉の実践では、関連する分野・職種の専門性と役割を認識し、相互理解・連携の必要性・重要性を理解して連携・協働することが大切である。本授業では演習形式により、学科の枠を超えて学生らがチームをつくり、対象となる人々の健康生活を支援するためのプランを協働で作成・発表する機会を設け、インタープロフェッショナルワーク（IPW）を実践的に体得（体験）する。これにより、将来の実践現場において、チームの一員として専門的知識や技術を実際に活用する方法を学ぶ。				
キーワード：多職種連携、チーム、専門性、役割、インタープロフェッショナルワーク（IPW）				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	12/2(火) Ⅰ・Ⅱ Ⅲ・Ⅳ	オリエンテーション	科目概要・演習の進め方説明	担当教員
第2回		全体講義	専門職間の連携（特別講義）	特別講義講師
第3回		事例の概要	事例の読み込み	チーム
第4回	12/4(木) Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	支援計画立案①	事例の読み合わせと情報交換	担当教員
第5回		支援計画立案②	各職種の立場からの支援計画立案	学科 担当教員
第6回				
第7回	12/9(火) Ⅰ・Ⅱ Ⅲ・Ⅳ	模擬検討会（TW）	各学生の支援計画を基にしたディスカッションによる、チームとしての支援の共通目標・方向性の検討	チーム 担当教員
第8回		TW 後のふり返り、 発表準備	各学生の支援計画の修正	
第9回			全体の支援計画のまとめと発表準備	
第10回	12/11(木) Ⅰ・Ⅱ Ⅲ・Ⅳ	成果発表	自他の専門領域の対象理解や支援方法の違いの理解	チーム 担当教員
第11回			各チームの支援計画および演習を通じた多職種連携に関する学びの発表	
第12回		まとめ	事後レポート、記録物の作成	
第13回				
第14回				
第15回				
履修条件		「体験ゼミナール」、「千葉県の健康づくり」の単位を修得済みであること。		
予習・復習		課題の提示あり。事例の支援計画立案にあたり必要な知識、自職種の専門性や用語等を他職種にわかりやすく伝えられるよう事前事後学習を行う。専門職間の連携に関する事項を各自調べる。		
テキスト		実施要項を配布する。		
参考書・参考資料等		必要に応じて紹介する。		
学生に対する評価		学習態度 55%、レポート 45%により、総合的に評価する。		

授業 科目名	社会実習 (ボランティア活動) Social Practice: Volunteer Activities	履修年次: 自由: 全学科専攻 2年・3年	単位数: 1 単位 45 時間 コード: SSA001	担当教員名: 科目責任者 荒井裕介 〔管理栄養士〕(研究室 A212) 北川良子, 佐久間貴士, 坂崎純太郎, 藤田佳男
〔DP〕Ⅰ 倫理観とプロフェッショナルリズム Ⅱ コミュニケーション能力 Ⅴ 健康づくりの環境の整備・改善				
〔授業の到達目標及びテーマ〕 1. 保健医療専門職が提供する専門的サービスの目的・方法・特性について理解する。 2. 保健医療サービスを受ける人々の、健康、生活、価値観、健康づくりに関するニーズを理解する。 3. 保健医療サービスへの主体的参加を通して、保健医療専門職に求められる、役割、責務、資質、態度について理解する。 4. 活動体験とその振り返りを通して、自己の学習課題と学習方法を明確にする。				
〔授業の概要〕 保健医療専門職が提供する専門的サービスにおけるボランティア体験と事前学習・事後学習を通し、保健医療サービスとサービスを受ける人々の理解を深め、自らがめざす保健医療専門職の在り様について洞察し、今後の学習課題を明確にする。				
キーワード: サービスラーニング・ボランティア・保健医療サービス				
〔授業計画〕				
回 数	日付	テ ー マ	内 容	担当
第1回	4 月	ガイダンス	社会実習の目的・概要 事前準備・事前学習について	科目責任者
第2回	5 月	事前学習1	「ボランティア」「サービスラーニング」について自己学習	科目責任者
第3回	6 月	全体講義1	講義「ボランティアとは」	特別講義講師
第4回	6 月	全体講義2	講義「サービスラーニングについて」	特別講義講師
第5回	7 月	事前学習1	参加するボランティア活動の決定 ボランティア活動の目標と活動計画を立てる 情報収集 (ボランティア活動内容、ボランティア活動で関わる人々)	各学科 担当教員
第6回	8 月	事前学習発表会	発表 事前学習内容の共有 社会実習活動計画書の作成	
第7回 ～13回	9～12月	体験学習	ボランティア活動に参加する 活動日誌を作成する	
第14回	1 月	事後学習	ボランティア活動の学びのまとめ 社会実習活動報告書の作成	
第15回	2 月	ボランティア活動報告会	発表 ボランティア活動と学び	
履修条件		体験ゼミナールの単位を修得済みであり、4 月に行われるガイダンスに出席した者に限る。		
予習・復習		ガイダンスで指示する。		
テキスト		ガイダンスで指示する。		
参考書・参考資料等		ガイダンスで指示する。		
学生に対する評価		提出物とボランティア活動状況から適当と判断した場合単位認定する。		